

Medical Library 書評新刊案内

13の実践レシピで解説! 看護を教える人が発問と応答のスキルを磨く本

内藤 知佐子, 高橋 聖子, 高橋 平徳 ● 著

A5・頁144
定価:2,640円(本体2,400円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-05112-5

評者 松尾 睦
青山学院大経営学部教授

経験から学ぶために欠かせないのが「経験の振り返り」であり、指導者は何らかの問いかけ(発問)によって学習者の振り返りを促す。しかし、発問だけの指導だと、学習者は自分の振り返り内容が正しかったのかどうか迷ってしまう。そこで必要なのが、適切な「応答」である。「発問」と「応答」をうまく組み合わせることが、優れた指導だといえる。しかし、教育の現場では、発問ばかりで応答が少ない「考えさせすぎ型」や、発問が少なく応答ばかりの「教えすぎ型」の指導者が多いのではないだろうか。そうした教員に対し、有益なアドバイスを与えてくれるのが本書である。以下では、「解説編」と「実践編」という二本立てで構成されている本書のエッセンスを紹介したい。

「発問」とは、「教育的な意図を持った問いの投げかけ」であり、見るべき視点と考える枠組みを与えることで学習をガイドする働きをしている。ここで注意すべきことは、「導入」→「展開」(発散、収束、深化)→「まとめ」という授業の流れの中で、発問の仕方を変える必要があるという点である。実践編において紹介されている有効なテクニックとして「答えやすい問いでリズムをつくる」「答えやすい問いから始

めて、段階的に掘り下げる」「席を外して学生に考えさせる」「学生同士で話し合うピア・ラーニングで考えさせる」「ロールプレイで考えさせて、答えを待つ」「相談スタイルの問いで一緒に悩む」といった発問を挙げることができる。

一方、「応答」とは、「学習者からの発言や意見、考えを受け止め、それに対して指導者が反応を返すこと」であり、学習者の自己肯定感や学びへのモチベーションを高め、思考を深める役割がある。応答の基本パターンは「待つ」「聴く」「確かめる」「返す」であり、学習者の心理的安全性を高めることを意識しなければならない。実践的テクニックとして参考になったのは、「授業開始時に、教員の自己開示で興味を持たせる」「ポジティブなショートメッセージで課題にフィードバックする」「印象的なレポートを紹介する」「相手の話に興味を持ち、共感しながら聞く」「どんな返答も否定せず、いったんすべて受け止める」「自分が明確な指示を出しているかを確認する」「自分の怒りをコントロールする」といった手法である。

「考えさせすぎ型」や「教えすぎ型」の指導から脱却したいと考える教師にとって、本書は有益なガイドとなるだろう。

「考えさせすぎ」「教えすぎ」教育からの脱却をガイドする本



急変! その予兆はバイタルサインに現れる。



緊急度を見抜く! バイタルサインからの臨床推論

山内 豊明

急変のサインは、呼吸数や呼吸のリズム、脈拍や血圧の変化に現れます。その変化を捉え、緊急度を見極める力は看護師に不可欠です。器械に頼らず、見て、触れて、聴いて、患者さんの状態を知る。数値の意味を考える。次にすべきことを判断する。しなくていいことを捨てる。一この一連の思考過程こそが臨床推論。臨床推論とフィジカルアセスメントの目的が、この1冊でつながります。

- 目次
- 1 基本は生命を維持すること——何はなくともまずはバイタル!
 - 2 呼吸から緊急度を見抜く——回数とリズムから素早く緊急度を判断する
 - 3 脈拍から緊急度を見抜く——心電図がなくても危険な不整脈は見抜ける
 - 4 血圧から緊急度を見抜く——緊急時は大ざっぱに数値を把握する
 - 5 体温から緊急度を見抜く——「普段」との違いと経時的な変化が判断のカギ
 - 6 意識レベルから緊急度を見抜く——急変に関わる第5のバイタルサイン
 - 7 バイタルサインを組み合わせて判断する——「バイタルサイン・ツインズ」という考え方
 - 8 急変時にバイタルサインを活用する——情報を整理・活用し、「段取りよく」動く
 - 9 臨床推論の進め方——臨床推論の道筋と目的を整理する
- Appendix 「急な症状」からの臨床推論

詳細はこちら



医学書院

他者理解を促すためのブックガイド

小川 公代
上智大学外国語学部
英語学科 教授

ケアを行うに当たって、自身とは異なる内面世界を生きる患者=他者を少しでも理解しようと努めることは、大切なアティチュードです。とは言え、他者を理解することも、そうした姿勢を維持することも、なかなか難しいのが実際のところ。本連載で紹介する書籍や物語作品は、他者理解に臨む上でのヒントを与えてくれるはず。気になる作品を見つけたら、ぜひ手に取ってみてください。

第12回(最終回) 中村哲医師の「武器なき戦い」

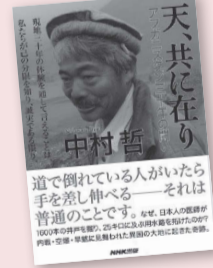
日本という国に閉じこもっている「他者」を真に理解することはできない。少なくとも国外で何が起きているかを知る必要がある。パキスタン・アフガニスタンの人たちと向き合い、他者へのケア実践をしたのが医師の中村哲さんである。35年にも及ぶ現地活動の記録を撮り続けたドキュメンタリー映画『荒野に希望の灯をともし』や中村さんの著書に触れると、彼がいかに偏狭な自助思想から自由であったかがよくわかる。本連載の最終回にふさわしい〈他者理解〉につながる「本」は、中村医師の人生そのものである。

長い年月、彼の活動を間近で撮り続けた谷津賢二監督は「民族も、言葉も、宗教も違う人々から、中村医師はなぜ深く慕われ、強い絆を結ぶことができるのか?」と自問したという¹⁾。そのヒントは、中村医師自身がつづった言葉にある。「一人で成り立つ自分はない。自分を見つめるだけの人間は滅ぶ。他者との関係において自分が成り立っている²⁾。日本での医師の仕事を経て、JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)から声がかかり、パキスタンのペシャワールで働いたことをきっかけに「ペシャワール会」を発足し、現地に診療所を立ち上げた。ハンセン病患者約2万人に対して専門医が3人しかいない「惨憺たる」現実に直面し、中村医師自身はハンセン病診療に携わることになったのだが、彼の創意工夫には思わぬならされる。人手不足を補う工夫として「比較的健康的な患者たち」から診療助手を募ったり、感覚麻痺による患者の「足底潰瘍」を予防するためにサンダルを奨励して「病棟の一角にサンダルの工房を設け」たり、とうてい医師の仕事とは思えないことまで行った。外国からの支援金は届かないばかりか「政府の有力者がピンはねする」ため、「涙金しか貧乏人には回ってこ」ない地域では、「民族も、言葉も、宗教も違う人々」と共に相互扶助の輪を広げながら工夫を続けるしかなかったのだ³⁾。干ばつによる水不足で「死にかけた幼児」を抱いて診療所に来る母親が急増した時は井戸を掘り、多くの命を救った。

ミシェル・ド・セルトーが『日常実践のポイエティック』で「弱者の戦術」を説いているが、アフガン難民や飢餓に苦しむ人々も選択肢のない弱者なのだ。彼らは「押し付けられた⁴⁾」状況下でなんとか生活するしかない。中村医師はまさに身の周りにあるものを創造的に活用する「日常実践の創造性」の戦略を取った。飢えに苦しむアフガニスタンの人々の苦しみに無自覚で、「『米国対タリバン』という対決の構図」を信じ込んだ日本でも「アフガン報復爆撃」への世論は加熱していた²⁾。干ばつで作物が育たなくなり、地域の人たちが傭兵となるしかなかった時、何十kmもの用水路をクナル川から引くという一大プロジェクトに乗り出したのは、中村医師だった。

しかもちょうどその頃、中村医師の次男が脳腫瘍で死期が近いと宣告を受けていたのだという。次男が闘病を続けていた最中に、空爆がテレビなどに映し出され、中村医師は「多くの幼い子らが殺傷されているだろう…(中略)…わが子の姿を重ね」ていたというのだ²⁾。彼にとって、自分の子どもの命もアフガニスタンの子どもの命も等価値であるということなのだろうか。攻撃の恐怖にさらされながらも、飢餓で苦しむ人々は中村医師の用水路を建設するという「武器なき戦い」に加わった³⁾。彼がその護岸にコンクリートを使用せず、鉄線籠の中に石を詰めて並べる方法を採用したのも、水生昆虫などの生命への配慮からであった。

2019年に凶弾に倒れた中村医師は、自然を含むあらゆる他者に配慮をしながら、より良い世界を創り出すために奮闘した稀有な存在であった。「見とれ、おまえの弔いはわしが命がけでやる。あの世で待ってとれ³⁾」と亡くなった次男に語りかける中村医師の言葉からは、他者を決して見捨てない覚悟が見て取れる。



参考文献

- 1) 劇場版『荒野に希望の灯をともし』パンフレット、2022. p3.
- 2) 中村哲. 天、共に在り——アフガニスタン三十年の闘い. NHK出版; 2013. p46, 94, 74.
- 3) 中村哲. 医者、用水路を拓く——アフガンの大地から世界の虚構に挑む. 石風社; 2007. p88-9, p88, p77.
- 4) ミシェル・ド・セルトー(著), 山田登世子(訳). 日常実践のポイエティック. 筑摩書房; 2021. p19.

学習者は、聞いて伸ばす! そして応えて伸ばす!

13の実践レシピで解説! 看護を教える人が発問と応答のスキルを磨く本

学習者との関係づくりに悩まれている方へ。「発問」と「応答」のスキル満載の実践レシピが、あなたのお悩みに即対応します! 学習者は、聞いて伸ばす! そして、応えて伸ばす! 明日の授業で、すぐに使える、フレーズ&テクニック集付き。

内藤知佐子
高橋聖子
高橋平徳

